

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500414
法人名	新居浜医療生活協同組合
事業所名	グループホーム香り草
所在地	愛媛県新居浜市新田町2丁目8番地24号
自己評価作成日	平成22年10月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

民家を改修した建物で、入居者が今まで暮らしてきた生活と連続性が持てるように配慮しています。また、住宅地の中にあり、庭に出れば通りがかりのご近所の方と挨拶できる環境があります。ご家族の訪問も多く、地域の中で当たり前の暮らしが実現できるように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、門扉や玄関を開放しておられ、前の道を歩く人が庭や花を見て「きれいね」と声をかけてくださったり、時にはお花の苗等をもらったり、あげたりして交流されている。又、近所の方が利用者の清拭に使う古布等を持って来てくれたり、庭の剪定や水やりを手伝ってくださっている。近所の八百屋やクリーニング店等も生活の中で利用しながら交流を図っておられ、事業所や利用者のことを気にかけてくださっている。事業所の縁の下で犬が子を産んだ際には、子犬の里親を見つけ、その後もその方達ともお付き合いをされている。事業所に沿った道の掃除をされたり、近所の方から介護相談を受けることもあり、法人が取り組む、地域支援の窓口につなげる等されている。
地域包括支援センター主催の「認知症を知るためのフォーラム」や「徘徊ネットワーク」の取り組み時には、事業所の職員が認知症の人役になって協力をされた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム香り草

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

才川 真由美

評価完了日

平成22年10月26日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 玄関入口とローカに掲示してあり、理念の共有と実践を心がけている。	
			(外部評価) 民家を改修した事業所で、家庭的な雰囲気を大切にされており、利用者やご家族、地域の人達との「自然な」人間関係作り等の基として「自分がされていやなことは人にしない」ことを事業所の理念に揚げておられる。日々、個々のかかわりの中で、職員は、理念を振り返りながら取り組んでおられ「自然な人とのつながり」を大切に、元利用者のご家族や近所の方ともおつきあいを続けておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 利用者の重度化により、だんだん地域のイベントの参加が難しくなっている。お祭りは参加し地域の一員として交流している。	
			(外部評価) 事業所は、門扉や玄関を開放しておられ、前の道を歩く人が庭や花を見て「きれいね」と声をかけてくださったり、時にはお花の苗等をもらったり、あげたりして交流されている。又、近所の方が利用者の清拭に使う古布等を持って来てくれたり、庭の剪定や水やりを手伝ってくださっている。近所の八百屋やクリーニング店等も生活の中で利用しながら交流を図っておられ、事業所や利用者のことを気にかけてくださっている。事業所の縁の下で犬が子を産んだ際には、子犬の里親を見つけ、その後もその方達ともおつきあいをされている。事業所に沿った道の掃除をされたり、近所の方から介護相談を受けることもあり、法人が取り組む、地域支援の窓口につなげる等されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などで研修報告や勉強会などを取り入れ地域の人達との交流を持っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 社会情勢により現状問題点や改善策をテーマにして地域の方々などに交わって頂き勉強会や意見交換をしている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、会議をホームの居間で行っておられ、利用者もその時々に参加されている。「地域の方のデイサービスのよな会議にしたい」と考えて、会議をすすめておられ「健康」をテーマにして「笑いについて」、又、歌に合わせて「手話」を習う等、法人内の方が講師になり、行われている。会議時、防災訓練を行ったり、地域の情報を得る機会にもなっている。現在、ご家族は1名の方に協力いただいております。その他のご家族には季節ごとに発行する新聞で報告されている。</p>	<p>さらに事業所では、今後「元利用者のご家族等、いろいろな方に会議に参加していただけるよう声をかけていきたい」と考えておられた。又、ご家族に、運営推進会議のことをさらに知ってもらえるよう、新聞をお渡しする際に、内容等について一言添えるように取り組みたいと考えておられた。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議や内部研修などに参加して頂きホームの運営など、困った時、相談指導をしてもらっている。</p> <p>(外部評価) 生活保護受給者の医療やケア等の支援について、市の担当者に相談されたり、介護相談員の訪問時、利用者から聞き取ってくださった意見や希望等をきっかけにして、改善や実現に向けて、ケアマネージャーがさらに具体的にうかがい、支援に採り入れるよう努めておられる。又、地域包括支援センター主催の「認知症を知るためのフォーラム」や「徘徊ネットワーク」の取り組み時には、事業所の職員が認知症の人役になって協力をされた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束のマニュアルを掲示して研修会などに参加し、勉強会を通じスタッフ間で共有している。</p> <p>(外部評価) 事業所の居間には「拘束0」のポスターを掲示しておられる。全職員で「ケアでカバーできるような取り組み」について、話し合いをすすめ、拘束のないケアの実践に努めておられる。調査訪問時、門扉を開放し、玄関は網戸にして、中からも外からも、人の動き等が感じられる雰囲気であった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を持ち各利用者さんの現状の把握とそれによって今後の起こし状況を協議共有し、ワーカー同身体拘束ゼロと事故防止に努めている一人ひとりの人格を尊重した対応を心がけている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の制度については勉強会を開いている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い納得いただいた時点で契約書を作成している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情処理箱を設置したり、日頃よりコミュニケーションを図るように勤めている。	
			(外部評価) 事業所の庭に山椒の木があったことから、家族会の名前を「山椒の会」と名付けて、運営推進会議等とも合わせて行っておられる。ご家族は、来訪時等に、意見や要望等をよく言ってくれるようで、事業所の敬老会時にはほとんどのご家族の参加があった。事業所のお利用者様の様子や状態等もよく知ってくださっており、健康に気遣って野菜をたくさん買って来てくれたり、アロエを育てることをすすめてくださったりするようだ。事業所の庭にアロエを植えておられ、ヨーグルトに入れて食すようにされていた。さらに、ご家族の利用者ご本人への思いや協力と、介護のプロである事業所職員のケアの工夫等をうまく合わせて、利用者個々が、今後もよりよく暮らせるような支援に取り組んでいかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の運営会の実施、申し送りや気付いた点は、ノートに記入し、情報交換をしている。	
			(外部評価) 長く勤務しておられる職員が多く、職員個々でカバーし合い、チームワークで利用者個々の暮らしを支えておられる。午前中に、地元の名称が歌詞の中に多く出てくる「小女郎狸ばやし」に合わせて、体操をすることを職員は採り入れておられ、利用者は笑顔で職員と一緒に楽しく体を動かしておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務日程表作成は、各職員の希望休を考慮に入れ日々利用者さんの対応に支障のない日程を組む努力。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各研修の日程表を掲示して希望する研修や必要と思われる研修は受けられるよう支援している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修などに参加し、サービスの質の向上の取り組みをしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) グループホームの雰囲気や様子等解って頂く為に家族と本人さんに見学して頂いて馴染んでもらう様にしている。又要望、気づいた事があれば直接お話を聞かせてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に今後の希望など家族さんに遠慮なくお話をさせて頂くよう配慮している又家族さんの困っている事等もこれからは入居さんの過ごし方も考えサービス計画に反映させている。	
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要としている支援を具体化し、ケアプランを立ててそれを基に対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として尊重、尊厳を共にしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 昼夜を問わずいつでも気軽に家族が立ち寄り楽しい一時を過ごせる場所を共に支えあえる様に配慮している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔の職場の同僚、教え子、友人、地域の方、隣人等、家族が気軽に訪問できるよう支援しています。 (外部評価) 病院の付き添いに来てくれる妹さんを楽しみに待てるように、職員は、利用者と話をしたり、以前通っていた法人のデイサービスに遊びに行かれることもある。又、ご家族が、お墓参りやお寺参り等、ご本人が希望する場所に連れて行ってくださることが多い。又、運営推進会議を居間で行っておられ、よく出席される地域の方と顔なじみになり、皆が来られることを楽しみにされている利用者もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 朝一に女郎狸ばやしの歌がかかるとリビングで一緒に楽しい雰囲気体操している。各自、思い思いの事をしているが必ずリビングでする事で通じ合うものが見えます。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入所前、利用していたサービス機関サービス関係の行事、参加をしたり、退所された家族さんの関係も続いていて交流が持っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の今までの暮らしや歴史を探り又家族との今までのかかりを把握し、少しでも本人にとって、やすらげる場所になるようにしている。	
			(外部評価) 職員は、日々の会話等から利用者個々の希望や思いを知ることができるよう聞き取ったり、利用者も食事の味付けやメニュー、生活の希望をよく言ってくれるようである。又、意思表示がしにくい利用者の方の目線の傾向と、以前の職業等も踏まえて、ご本人の思いや意向を掴むこと等に職員が気付かれて、ご本人が好むこと等の把握をされていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者とのふだんの何気ない会話の中から今までの暮らし方、思いなどを感じとっている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のバイタルチェックで心身状態の変化や把握に努めている。毎日、リズム体操を行っていて利用者の機能に合わせ参加できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者の日々の心身状況の変化や出来る事、望む事、望まれないことなどを把握して、チーム会で意見を出し合い、問題点などを話し合い、共有する事で介護計画に反映させている。</p> <p>(外部評価) 利用者の暮らしの希望とご家族の要望をお聞きして、職員の気付き等を持ち寄り話し合って介護計画を作成されている。3ヵ月ごとに、モニタリングと評価を行い、必要に応じて見直すようになっている。ケアマネージャーは、外部研修で「利用者主体の介護計画」の作成について勉強され「利用者の視点に立った計画作成に取り組みたい」と話しておられた。</p>	<p>職員の気付き等を集めてアセスメントの充実を図り、さらに、ご本人主体の支援ができるよう介護計画に採り入れてほしい。ご家族の思いやご本人の状態等も踏まえ「利用者ご本人がより良く暮らすため」の介護計画作成に取り組んでいかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々、各利用者の状態記録を記入し、スタッフ同志の共有をはかっている。まだ、問題があれば介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 通院の送迎などの支援を行っている。レクリエーション。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 自治会活動などで地域と交流。家族との交流(誕生会の招待、家族会)生活相談員の受入れ。地域の人がボランティアで花の水やりをして下さる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医の選択は、本人と家族の意向で選んでいる。訪問看護ステーション(24時間対応)や主治医の往診、受診を利用して納得のいく医療を受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者が透析を行うために総合病院に送迎されている。入・退院を繰り返す方もあり、入院時には、ご本人の様子を再々見に行かれて、ご本人の状態を把握されたり、関係の継続に努め、ご本人が安心できるように支援されている。法人から専門職の方が来られて、口腔リハビリやマッサージをしてくださったり、歯磨き等の指導をくださる。医師・ご家族・事業所でご本人の健康管理や生活支援について話し合いながら、利用者個々を支えておられる。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 訪問看護師と馴染みの関係が出来ていて親身に相談支援して頂いている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時、入院中家族、スタッフが面会や医療スタッフとの面談を通じて情報交換している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化や終末期を迎えた時に起こり得る。心身状況の変化など家族とスタッフが共有し、医療機関や家族、スタッフが連携し、ターミナル支援の同意を得た上でターミナルケアにかかる同意書を頂き共に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 入・退院を繰り返しながら、事業所で最期を迎えた方もおられた。最期は、ご家族と管理者で一晩、ご本人の思い出話をしながら看取られたようだ。ご家族は「最期はホームで過ごす」ことを希望される方が多く、又、利用者の中には「私はここで死にたいの」と、気持ちを打ち明ける方もあるようだ。入院をして医療行為を望まないような方もあり、医師と「ホームで何が出来るか」ということを一緒に考えながら、重度化した利用者の生活支援に取り組んでおられる。事業所は、食事にとっても細やかな心配りをされており「口から食べる」ことを大切にして、利用者の生活リズム等にも合わせながら気長に食事介助をされている。</p>	<p>現在、事業所では複数の利用者の重度化に直面されており、さらなる医療との連携や細やかなケアや対応が必要になることを踏まえ、ご家族や医療機関との協働体制作りやチームワークを強めていかれることが期待される。現状、職員の手不足を感じる面もあるようだ。協力者を挙げたり、法人とも、職員の体制等について理解や協力をいただけるよう、話し合ってみてはどうだろうか。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			訪問看護師の内部研修を受けて実践力が身に着くように努力している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			運営推進会議などで地域の方々に、協力をお願いし、当ホームの避難経路などを話しあったり、避難通路の整備に努めている。	
			(外部評価)	
		利用者の居室の掃き出し窓の外側には、ブロックを積み、段差を軽減して車いすでも出られるようにされたり、ウッドデッキに車いすを用意し、避難経路にサーチライトを設置された。又、避難訓練を行った際、報知機の音に気付かない利用者もあつたことから、フライパンをすりこぎで叩き大きな音で利用者を起こすことにされ、冷蔵庫の上に常備されている。又、事業所の近くに消防署の支所があり、いざという時には短時間で駆け付けてくれることになっている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			その人の気持ちをくみとり、笑顔で安心出来る様に接する。	
			(外部評価)	
		利用者から「出ていかんといけないか」と聞かれることもあるようだが、管理者は、ご本人が安心して生活できるように返答されている。午前中の体操の時間には、職員も一緒に体操しながら利用者にアイコンタクトでコミュニケーションされていた。昼食後には、個々の暮らしのペースに合わせて居室や居間で思い思いに過ごせるように見守っておられた。家庭的な雰囲気の中、職員と利用者との距離が近くなることや、長く勤務されている職員も多く、利用者で「家族のような関係」となっているようだ。	ご家族への対応等に、配慮が必要と感じる場面も見られる。周囲の方達にも配慮して、雰囲気作りに努力していかれてほしい。又、この機会に職員の利用者への声かけや対応、又、ご家族への言葉かけや対応、雰囲気について点検する機会にされ、「人間関係を大切にす」事業所のさらなるサービス向上に取り組んでいかれてほしい。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			表情やしぐさで思いや希望をくみとり自己決定を促している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望にそえるよう工夫し、対応する。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の家族が毎月出張で、理髪をしてくださり、利用者が心まちにしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 海老のからむき、いりこの骨とり、もやしのひげとり、白和え作りなど職員と一緒に楽しんでいる。	
			(外部評価) 近所の八百屋から新鮮な野菜を仕入れ、野菜を多く採り入れた食事作りをされている。豆を煮て毎朝お出ししたり、食事時に果物も付けるようにされている。昼食は肉、夕食時には魚を採り入れ、砂糖をできるだけ使わず、薄味で調理されている。調査訪問時、もやしの根とりをされている利用者も見られた。利用者の方が「食事に気を付けてくれて、おいしいし、体調がとてもいいのよ」と話してくださった。台所の調理台・流し台はアイランド型で、全面から食事作りにかかわることができるようになっており、食後には、他利用者の食器も一緒に洗ってくださっている利用者の様子がうかがえた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 刻み食、ミキサー食、糖尿食、透析食の栄養バランス、摂取量など個別支援にとりこんでいる。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアや口腔マッサージなどで清潔保持と誤嚥予防をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			個別に排泄の時間帯を探り、声かけやトイレ誘導で自立出来る様にしている。	
			(外部評価)	
			事業所内のトイレは2か所あり、1か所は出入りはアコーデオンカーテンで仕切られていた。使用していない時には開けてあり、利用しているかどうか分かるようにされている。長時間をベッドで過ごす利用者も複数おられ、ご家族や近所の方等からいただいた古布を切っておしり拭きを作り、居室には、いつでも使用できるように炊飯器で保温されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			食物繊維などを多く使った食事の支援と乳製品や野菜ジュースなど水分補給につとめている。毎朝、健康体操を実施している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入浴日が決まっているが、体調を考慮しながら個々に応じた入浴支援を行っている。	
			(外部評価)	
			週に4日、入浴の日があり、利用者の体調等に合わせて支援されている。脱衣所は電気ストーブ、又、浴室は、シャワーで温めて、室温にも気を付けるようにされている。浴槽は、ステンレスで深めではあるが、職員が見守り、浴槽内に踏み台を置いて、ご自分の力を使って入ることができるようになっている。入浴剤を入れることを好まれる方もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			各自の生活リズムや生活習慣に合わせて思い思いに自室で休まれたり、リビングで過ごされたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の薬剤情報の説明書を読み、効能、投薬方法の把握を全職員が共有し、支援している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯たたみ、食材の下ごしらえ、地域の商店に買い物、個々の趣味（絵の作成・韓国ドラマ観賞）お墓参りや季節を感じる為のドライブなどの支援をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族との外出を楽しんだり、職員と同行で、季節のうつろい観賞をしている。	
			(外部評価) 近所の商店やおはぎの美味しいお店に買いに行かれたり、庭に出て、ベンチで日向ぼっこされることもある。事業所内・外には、段差等もあるが、車いすを使用している利用者が、できるだけ段差を感じないように職員が介助をされている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭保管は、能力に応じてしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙の接続の支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングではみんながあつまれる場所とし、季節の花や利用者の写真や絵を飾っている。キッチンからの包丁の音や食材のにおいを感じている。	
			(外部評価) 築100年の民家を改装したグループホームで、天井は梁が見え、ガラス戸やふすま、障子、又、床等も手入れされて趣き深い色とつやがある。居間は、床暖房が設置されており、木や繊維壁等に囲まれ、暖かく過ごせる構造となっている。廊下からも庭の様子がよく見えて、今日の天候や庭の花や木等からも季節の移り変わりが感じられる。事業所内はあえて段差をそのまま残して、歩行が可能な利用者は、手すりや建具等を持って、上がり降りしながら暮らしておられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファで、気のあった利用者同志が会話をしたり、居眠りなどをしている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 思い出の品々が飾られている。	
			(外部評価) 介護度の重度の利用者も複数おられ、居室で長時間横になって過ごす方もある。介護用品等は、収納ケースに整理されていた。畳の部屋が多く、じゅうたんやラグ等をところどころに敷いておられた。二人部屋もあり、利用者同士、人の気配等に安心感もあるようだ。居室はどの部屋も造りが違い、それぞれに居間に近くて、皆の声が聞こえてくる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自室入口に目印の花の絵とともに名前を記入したり、居室を確認出来るようにしている。	